

「千葉県都市づくりビジョン（案）」に対する意見と県の考え方

千葉県県土整備部都市整備局都市計画課企画調整班

1. パブリックコメント実施期間 令和5年3月1日（水）～3月30日（木）

2. 意見提出数（意見の延べ件数） 6人（19件）

3. 提出された意見の概要と県の考え方

※提出された意見について、趣旨を損なわない範囲で要約させていただきました。

また、同内容の意見についてはまとめさせていただきました。

※複数の理由から意見が述べられている場合は、意見の概要を分けて掲載しています。

No.	ページ	ご意見の概要	県の考え方
ビジョン全体			
No.1	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・「都市づくり」はハードなイメージが強く、我々県民にとっては、「まちづくり」の方がソフトな感じがするため、「都市づくり」より「まちづくり」の方が良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本ビジョンの対象範囲は都市計画区域内外にかかわらず、一体的な「都市」として広域的な観点から整理したものです。また、「千葉県総合計画」と「都市計画区域マスタープラン」とをつなぐ計画であることから「千葉県都市づくりビジョン」としています。
No.2	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・このビジョンが「絵に描いた餅」に終わることがないように、都市づくりの方向性を示されたので、方向性に沿った具体的な取り組みも示してほしい。 特に働く場・産業の確保は、持続的な都市づくりの根幹であることから、地域産業の育成や企業の誘致など、県として具体的な計画を示し、働く場を作してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本ビジョンの位置づけは、「千葉県総合計画」と「都市計画区域マスタープラン」をつなぐものであり、具体的な取り組みは都市計画区域マスタープラン等を踏まえて、進められます。 ・本ビジョンで掲げた目指すべき「都市の姿」を具現化していくために、具体的な取り組みを検討していきます。
2 都市づくりビジョン策定の背景と必要性			
No.3	P3 (1)①c	<ul style="list-style-type: none"> ・県内市町村の各地区の限界集落(65歳以上が50%を越える集落)に関する2045年の予測データがございましたら、千葉県の図の中にプロット図で示すと、コンパクトシティの必要性がさらに深まると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率については、本ビジョンの4ページに千葉県図を用いて示しています。

3 都市づくりの課題の整理			
No.4	P11 ■ 6 つの視点と課題 ■安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30年先を見据えた計画であるならば、海と川に囲まれている本県においては、30年先、50年先の海水面が温暖化でどのように変わっているかの予測も必要と考える。 無駄なお金をかけることになりかねないため、水没する地域から住居や産業施設を移転する計画を立て、順次、公園・緑地などの利用に切り替えていくなどの計画も必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口や環境の変化は時代の変化によって変容していくものであることを踏まえ、都市計画基礎調査の結果等も精査しながら、必要に応じて都市計画の見直し等を行っていきます。 ・ 本ビジョンで掲げた目指すべき「都市の姿」を具現化していくために、具体的な取り組みを検討していきます。
	5 都市づくりの目標と方向性 P21 ■安全・安心 方向性03	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水災害への備えは、直近に想定される備えだけでは済まないと考える。50年先100年先を見据えた対策が必要ではないか。 その中には、地球温暖化による海水面が5m上昇した時に耐えうる対策が必要になると思います。そのためには国の強力なバックアップが必要になる。 この都市づくりビジョンで実施する対策が中期を対象とするにしても、その中期の中で次の中期や長期の計画の準備をする必要もある。海面上昇等の地球温暖化の影響は、数十年先の影響を想定した危機管理意識が必要と思うし、その意識をビジョンの中に表現することも必要なのではないか。 	
No.5	P12 ■ 6 つの視点 ■産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通インフラで鉄道も位置付けるべき。 日常の足としての鉄道の確保の為に、鉄道を利用した観光を発展させる方向を考えるべき。鉄道利用者への優遇処置や、駅から最寄りの場所までのバスや自動運転タクシーなどの足を充実させるなどの検討が有って良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P19の方向性02 拠点をつなぐネットワークづくりに記載していますが、地域を結ぶ鉄道やバス等の公共交通施策と連携し、持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指すこととしています。
No.6	P12 ■ 6 つの視点 ■産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材確保の為に、働く場所・生産する場所の確保が必要であり、個人経営に任せる現状は衰退しがなく、県内・地元の組織・団体による生産組織を作ることも考えた方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本ビジョンの位置づけは、「千葉県総合計画」と「都市計画区域マスタープラン」をつなぐものであり、本ビジョンで掲げた目指すべき「都市の姿」を具現化していくために、具体的な取り組みを検討していきます。

No.7	P13 ■ 6 つの視点 ■ 環境	・自然への負荷を極力減らして、住環境への影響の少ない再生可能発電の導入が求められている。住宅では太陽光発電プラス、ドラム型等の騒音の少ない風力発電とかの導入支援も視野に入れた内容にならないか。	・本ビジョンの位置づけは、「千葉県総合計画」と「都市計画区域マスタープラン」をつなぐものであり、本ビジョンで掲げた目指すべき「都市の姿」を具現化していくために、具体的な取り組みを検討していきます。
No.8	P14 ■ 6 つの視点 ■ マネジメント	・利用者が置き去りにされたりしないよう、「官民」の「民」は「民間企業の民」ではなく、「住民の民」であるべきでその姿勢をきちんと表現してほしい。	・P41の7今後の都市づくりを支える取組(6)で示したとおり、企業のみならず、地域で暮らす住民一人ひとりが都市づくりの主役・担い手です。 ・自治体の財政難や人手不足という課題への対応として、エリアマネジメント活動や民間の資金、ノウハウを活用した官民連携による都市づくりの必要性を示しています。
5 都市づくりの目標と方向性			
No.9	P17 ■ 構造 方向性1 方針1	・「500世帯単位」とか「人口1500人単位」とか「半径2km単位」とか「コンパクト」の範囲を明確にしてほしい。「コンパクト」の範囲を定義づけしないと適切な計画にならない。	<p>・コンパクトな都市の規模や機能については、それぞれの地域の特性に応じて検討が進められます。</p> <p>具体的な施策等については、市町村が作成する立地適正化計画等により、示されていくものと考えています。</p>
	P17 ■ 構造 方向性1 方針3	・生活サービス機能として、きめ細やかな公共交通システムもあると思う。 日常的には自家用車無くとも生活が成り立つコンパクトさが必要で、そうした意味合いも入れられないか。	
No.10	P18 ■ 構造 方向性1 図 多様な拠点	・高齢化と地域の過疎化に伴い、「広域的な拠点」に人口も含めたすべてが集約されてくるのは避けられない。その中で、ここで言う各「拠点」に求めるものが何なのかが不明確。 「地域の漁業生活を維持するための小範囲生活圏の拠点」等の定義を明確にしないと、政策実行できない。	<p>・本県の郊外部等において、農林水産業や地域固有の文化・伝統を継承していくために、小さな拠点の形成を図ることで、人々が魅力を感じて住み続けられることができる都市づくりについて、示したものです。</p> <p>・コンパクトな都市の規模や機能については、それぞれの地域の特性に応じて検討が進められます。</p> <p>具体的な施策等については、市町村が作成する立地適正化計画等により、示されていくものと考えています。</p>
No.11	P21 ■ 安全・安心 方向性3 方針2	・マイクログリッドの構築施策の具体的な施策検討に際しては、より効果が発揮できるよう電源の多重化(太陽光発電+蓄電池、ガスコージェネレーションシステムなどの併用)に留意して頂きたい。	<p>・災害対応等には、電源の多重化による電力の強靱化は重要であると認識しております。電力強靱化のためには、各地域の実情に応じて電源の確保を目指していきます。</p> <p>・本ビジョンで掲げた目指すべき「都市の</p>

	<p>P30</p> <p>■環境 方向性 07 方針1</p>	<p>・下記黒枠内容の変更追加を提案する。</p> <p>さらに、居住や都市機能が集約したコンパクトな都市づくりを推進し、バイパス整備や交差点改良等による渋滞緩和、歩行者・自転車通行空間の整備及び公共交通の利用促進により移動に伴うCO2を削減するとともに、地域内の再生可能エネルギー等を活用したマイクログリッドの構築による効率的なエネルギー利用も効果的で、電源の多重化をすることでレジリエンス強化にも繋がります。</p>	<p>姿」を具現化していくために、具体的な取り組みを検討していきます。</p>
	<p>6 広域 な都市 づくり の視点 P38 (4)</p>	<p>・災害対応のための施策と理解すると、電源多重化が資するものと考えため、下記黒枠のとおり「効率的なエネルギー利用」から「電源多重化」に修正変更を提案する。</p> <p>無電柱化や電力の強靱化に資する地域マイクログリッドの構築による電源多重化も効果的です。</p>	
<p>No.12</p>	<p>P24</p> <p>■暮らし 方向性 04 方針2</p>	<p>・子育て支援の子供ルームのような、母親同士で子育ての話をしあえるような施設を、小学校区単位くらいに配置できると、子育てノイローゼの軽減につながると思う。</p>	<p>・保育所などの子育て関連施設の適切な配置など子育て世代を支援するための環境整備を目指していきます。</p> <p>・本ビジョンで掲げた目指すべき「都市の姿」を具現化していくために、具体的な取り組みを検討していきます。</p>
<p>No.13</p>	<p>P19</p> <p>■構造 方向性 02 方針1</p>	<p>・高齢者にとっては、移動距離がなるべく短く、農漁山村に限らず都市部でも小地域社会で移動しやすい公共交通が必要ではないか。自動運転技術が発展する中、小地域社会の中での無人巡回交通を模索し、日常生活では小地域社会でほぼ完結するようにし、「たまの暮らし」のような小地域社会をつなぐ中地域交通網を作るなどの方法の検討もしてはどうか。</p>	<p>・方向性2の方針2に記載してあるとおり、広域的な拠点、身近な生活拠点のアクセスできる公共交通ネットワークの構築を目指していきます。</p> <p>・本ビジョンで掲げた目指すべき「都市の姿」を具現化していくために、具体的な取り組みを検討していきます。</p>
<p>No.14</p>	<p>P25</p> <p>■暮らし 方向性 05 方針1</p>	<p>・子供が集まれて、高齢者が地域で役割発揮をできる、世代を超えた交流のできる場所が小地域単位であると良い。運営については自治会・町内会・商店会などに協力を依頼することもできるのではないか。そうした使い方の可能性も表現してほしい。</p>	<p>・地域コミュニティの活力低下などの課題に対応するため、多世代が暮らし続けられる取り組みを目指していきます。</p> <p>・既存ストックをリノベーション等により有効活用し、地域に賑わい場やコミュニティの場等を創出することにより、活性化された都市づくりを目指していきます。</p>

No.15	P30 ■環境 方向性 07 方針1	<p>・下記黒枠内容の変更追加を提案する。</p> <p>太陽光発電、洋上風力 発電及び下水汚泥のエネルギー利用等の再生可能エネルギーや水素等の新エネルギーの最大限の導入、排熱等未利用エネルギーの活用などバランスの取れたエネルギー利用を促進することにより、カーボンニュートラル を目指していきます。また、カーボンニュートラルに向けた新技術の実用化までは長い時間が必要なので、省エネ設備の導入促進等で一層の省エネルギーを進めていきます。</p>	<p>・本ビジョンは概ね30年先の都市づくりの方向性を見据えたものであり、都市全体での効率的なエネルギー利用の実現については、ICT等の新技術を活用した地域内エネルギーの最適化など、スマートな都市づくりを促進していくことが重要と考えています。</p> <p>・本ビジョンで掲げた目指すべき「都市の姿」を具現化していくために、具体的な取り組みを検討していきます。</p>
No.16	P35 ■マ ネ ジ メ ン ト 方向性 10 方針1	<p>総務省が公表した、地域課題の解決を通じた持続可能な地域社会の実現（総務省重点施策2023）にも記載がなされている、デジタル田園都市国家構想に基づきセキュリティーなどにも考慮した安全・安心な暮らしは重要と考えるため、下記項目に黒枠内容の変更追加を提案する。</p> <p>豊かで安全・安心便利な暮らしの実現を目指して</p>	<p>・ご意見のとおりセキュリティーなどにも考慮した安全・安心の視点も重要と考えることから以下の通り修正します。</p> <p>（方向性10）方針1、本文2行目 「セキュリティー等にも考慮した豊かで便利な暮らしの実現が求められています」</p>
No.17	P30 ■マ ネ ジ メ ン ト 方向性 10 方針2	<p>・3D都市モデルという言葉が登場しますが、これを実装するプラットフォームとしてProject PLATEAUが提唱されている。2020年に提唱されてから急速に認知度が高まっており、単にプラトーだけでもイメージ可能な状況を鑑みてキーワードに「PLATEAU」が必要ではないか。</p>	<p>・都市計画になじみのない方にも理解をしていただきたいため、3D都市モデルと記載しています。</p> <p>プロジェクトプラトーについては、用語集に追記します。</p>
7 今後の都市づくりを支える取組			
No.18	P40 (1)	<p>・本案では市町村での区切りを想定したマスタープランの策定を進めると理解しているが、この場合、市の中心部から離れたポテンシャルのあるエリアが、どこのマスタープランにも属さない可能性が出てくる。よって市町村を東西南北で細分化して実態に合わせて圏域を設定するなど、柔軟な対応が可能となる文言に変更すべきと考える。</p> <p>・例えば、船橋市の小室町含む北端エリアは船橋の中心から離れていますが、北総鉄道の駅や国道16号に加えて北千葉道路も有しており、将来的には北千葉道路専用部の計画があるなど、広域からのアクセス性の良さを活かして千葉ニュータウン地域を支える中心拠点の一つになりえるポテンシャルがあるが船橋市は湾岸エリアとの関わりが強く、小室含む北端エリアは数十年にわたり注目されずに手が付けられていない状況。更に千葉ニュー</p>	<p>・本ビジョンの位置づけは、総合計画と都市計画区域マスタープランをつなぐものであり、圏域の設定についても関係機関や地元市町村の意見を伺いながら設定していきたいと考えています。</p> <p>・各地域で抱える都市の状況やそれぞれが有する千葉県らしさを踏まえ、行政区域を超えた広域的な視点に立った都市計画区域マスタープランの策定を行っていきます。</p>

		<p>タウン地域としても捉えられずにいるため埋もれたままとなっている。</p> <p>こうしたエリアは県内に多数あると考えられるため、地域のポテンシャルが最大限に引き出されるビジョンの策定を期待する。</p>	
No.19	P40 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市づくりを支える取り組みについて、DXを活用し、県民が分かりやすく興味を持てるよう都市づくりの情報発信をしていただきたい。 ・AIの積極的な導入により、経済・環境・景観・安心安全・暮らしやすさなどについて、シミュレーションを行い、今後の地域の変化を示してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画基礎調査データ等を活用して、都市の「見える化」や理解しやすい都市計画の情報の発信等を行い、住民参加型の都市づくり活動を進めていきます。 ・都市づくりに効果的なDX等の取り組みについては、国の動きや先進事例などにも注視しながら検討を進めていきます。